

【会場アクセス】

川崎フロンティアビル2F (KCCIホール)
〒210-0007 神奈川県川崎市川崎区駅前本町11-2

[JRをご利用の場合]

川崎[東口]より徒歩2分

[京浜急行電鉄をご利用の場合]

京急川崎[中央口]より徒歩3分



【参加申し込み・お問い合わせ】

下記の申込内容を、一般財団法人たんぽぽの家まで、FAX、郵送、E-mailでお知らせください。

お申し込み先 一般財団法人たんぽぽの家
〒630-8044 奈良市六条西3-25-4
TEL : 0742-43-7055 FAX : 0742-49-5501

ウェブサイトからのお申し込みはこちら
⇒

お問い合わせ 一般財団法人たんぽぽの家 (担当: 小林・岩城)
E-mail : carecare@popo.or.jp

【申し込みフォーム】 FAX ⇒0742-49-5501

必要事項をご記入のうえ、該当する項目にチェックをいれてください。

※ご記入いただいた個人情報は、本セミナーの受付事務においてのみ利用させていただきます。

ふりがな	ご所属(よろしければ、活動先・活動内容などをお書きください。)	
お名前		
ご住所(□ご自宅/□勤務先等) 〒		
TEL (□ご自宅/□勤務先等)	FAX (□ご自宅/□勤務先等)	
Eメール (□ご自宅/□勤務先等)		
通信欄(ご質問・ご要望があればこちらにお書き下さい)		

【主催者紹介】

一般財団法人住友生命福祉文化財団

当財団は、昭和35年に住友生命保険相互会社の寄付により財団法人住友生命社会福祉事業団として設立、平成25年4月より一般財団法人住友生命福祉文化財団に移行。社会の福祉及び文化の振興に貢献すべく、予防医学振興事業、福祉事業、音楽文化振興事業を展開しています。

一般財団法人たんぽぽの家 ケアする人のケアプロジェクト

「ケアする人が心身ともに健康であってはじめて、他者を気づかう支えあいの社会が実現できる」との考えから、1999年に「ケアする人のケア・サポートシステム研究委員会」を立ち上げ調査研究に取り組む。2005年度よりケアする家族を支える活動として、全国各地で住友生命福祉文化財団と共催でセミナーを開催しています。

ケアとソリューション フォーラム

AIとケア

人の思いやり・気づかいはどう変わるか



日時 — 2016年12月12日(月) 13:30~17:00
(13:00 受付開始)

会場 — 川崎フロンティアビル 2F (KCCIホール)
〒210-0007 神奈川県川崎市川崎区駅前本町11-2

定員 — 150名

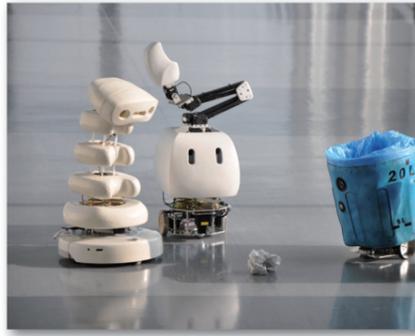
対象 — ケアの課題に取り組んでいるNPOや福祉事業所、企業、関心のある方全般

主催 — 一般財団法人住友生命福祉文化財団
一般財団法人たんぽぽの家

共催 — 川崎市

後援 — 神奈川県

協力 — 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会



「 介護・介助や子育てなどケアを必要とする人に対して、ケアする人が圧倒的に足りない時代がやってきます。対応策として、海外からの労働力の受け入れや、医療・介護ロボットの導入が進められています。新しいケアの担い手に期待する一方で、外国人労働やテクノロジーによるケアに懐疑的な人は多くいます。身近な人でなければ安心できない・信頼できない気持ちが生じるのはなぜでしょうか。そこで、外国人労働者やテクノロジーを導入している現場から「人が、人として、人を気づかう」とは何かを捉えなおします。企業やクリエイターも含め、人と関わる繊細で感情的なケアの現場に必要なことは何かを学び語りあいます。」

13:00	受付 [30分] ※機器・ロボットコーナーで体験
13:30	主催者あいさつ [5分]
13:35	川崎市長あいさつ [5分] ※予定
13:40 14:30	<p>【基調講演】 人工知能の思いやり ～ロボットをケアの視点から見つめなおす～</p> <p>誰かを思いやることと、自分自身が豊かな人生を送ることの両立の難しさを感じている人は多くいます。その両立を支える存在としてAI(人工知能)ロボットの進歩が期待されていますが、感情をやりとりする繊細なケアの現場での活用は危惧されています。「弱いロボット」「引き算のテクノロジー」など、ケアの視点から見えてくるロボットを通じて、ひとりの人間として、ケアにたずさわるときに必要なことを考えます。</p> <p>岡田 美智男 (豊橋技術科学大学 教授 / 愛知)</p>
14:30 14:50	<p>【キーノート・トーク】 テクノロジーと人の距離 ～異質な他者との関わりあい～</p> <p>これからも技術が進歩を続ける中で、技術を開発する人は何を想い、ケアの現場は何を大切にしていけるのでしょうか。まだまだ分かりあえない他者とどのように向きあうか、テクノロジーの最近の動向を踏まえながら考えます。</p> <p>塩瀬 隆之 (京都大学総合博物館 准教授 / 京都)</p>
14:50	休憩 [10分]

15:00 15:50	<p>【実践報告】 ケアの新たな担い手 ～信頼までの葛藤と折り合い～</p> <p>外国人労働やテクノロジーを迎えるときに、何が課題となるのでしょうか。抵抗感がある一方で、人と人が向きあう時間が増え本来の「人としてのケア」ができる良さもあります。現場が受け入れるまでの葛藤・期待から、新たなケアの担い手の可能性について考えます。</p> <p>① 齋藤 栄一郎 / 社会福祉法人富士白苑 介護老人福祉施設 中井富士白苑 生活支援課長 施設の中にいる人たちは、ロボットと一緒に暮らすことをどのように受け入れ、どんな変化が生まれたのでしょうか。ともに生活しているからこそ見えてくる“人間らしいケア”とは何か、自律型コミュニケーションロボット「パルロ」と実際に過ごしている現場から考えます。</p> <p>② 牧野 裕子 / 社会福祉法人千里会 第2新横浜パークサイドホーム 施設長 経済連携協定(EPA)をきっかけに外国人介護福祉士候補者の受け入れをはじめ、受け入れを辞める施設も多いなかで外国人と働き・暮らすということを7年間実践しています。「外国人」と分け隔てることのない現場から、“他者を気づかう”とは何かを考えます。</p>
15:50	休憩 [10分]
16:00 16:50	<p>【パネルディスカッション・質疑応答】 大切な人のケアを誰に託せるか</p> <p>介護・介助や子育てなど身近な人をケアすることが増えていくなかで、今まで接したことがない存在に、大切な家族や自分の身を任せることはできるのでしょうか。あるいは、ただ役割を託すだけでなく、一緒に暮らしていくために必要なこと、これからできることについて大学・行政、そして福祉と企業をつなぐ視点から議論を深めます。</p> <p>岡田 美智男 / 豊橋技術科学大学 教授 滝口 和央 / 川崎市経済労働局 次世代産業推進室 ウェルフェアイノベーション担当係長 上竹 淳二 / 富士ソフト株式会社 プロダクト・サービス事業本部 PALRO事業部 牧野 裕子 / 社会福祉法人千里会 第2新横浜パークサイドホーム 施設長 瀬戸 恒彦 / 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事長</p> <p>コーディネーター 塩瀬 隆之 / 京都大学総合博物館 准教授</p>
16:50	終了 ※機器・ロボットコーナーで体験